



加蘇山 (かそやま) 神社から歩き出す。農業を司る神様であるらしい。以前はけっこう開けていたらしく山門などの造りは立派であり、近くには土産物屋の名残さえある。しかし今ではどれも古くて錆び付いていたりして大勢の人に熱心に信仰されているとは言い難い。とはいえ、岩のゴツゴツした石裂山の全面に神社の影響を残して



加蘇山神社

いるところは信仰の強靭さを物語って余りある。その神社を巻くようにして歩き始める。登山口まで来ると、「山は荒れていて通行不能」を書かれた看板が出ている。ツアーリーダーが降りてきた人に道の様子を聞いたりして安全性を確かめる。しばらく行くと森林帯は



倒木だらけである。根こそぎ倒されているという感じであるので、このあたりには珍しい今年の多量の積雪量によってもたらされたものであろうと推察される。登山道を遮るものは数箇所であったので、登り口にあった「通行不能」の看板は大げさかなと思える。まあ数週間前には実際に通行不能であったのかもしれない。中ノ宮跡を過ぎると立派すぎるとも言えそうなクサリ場が出てくる。このあたりから登りの勾配がきつくなる。稜線に出て勾配も楽になったと思っただが、頂上が近づくとまたすぐにきつくなって呼吸が乱れるようになった。ヒーコライいなながらも最初のピークである東ノ剣について昼食。ここではアカヤシオが疲れた体を休ませてくれる。石裂山までもう少しであるのになんでこんなところで飯にするのかと思ったら、すぐに理由が判った。ものすごい急な降りや登りが続くのである。鉄バシゴが取り付けられているのでなんとか通過できるが、一昔前の信者とか修験者は自力でこんなところを何とかしたのであろう、アンビリバブル。八ヶ岳の権現岳の鉄バシゴも垂直ですごか



倒木だらけの樹林



アカヤシオと月山



鉄バシゴ

ったが、ここは何箇所か乗り換えなければならず、その度に角度が変わるのでややこしい。

石裂山を過ぎて月山に着くと、石裂山にはなかった鳥居がある。降りコースはぐっと楽な道になっている。我々の通った周回ルートが石裂山の標準的な行程であるらしいが、あんな鉄バシ

ゴやクサリのなかった時代には降りのコースを往復するのが一般的であったのかと思わせる。



月山の鳥居